

## 市民病院だより

問 市民病院 ☎ 22-5211

多治見市民病院 病院長

今井 裕一  
Hirokazu Imai



多治見市民病院の病院長に着任して丸6年が経ちました。小学1年生だった子どもは、中学生になる年数です。病院も成長しています。

市民病院にとって前半の3年と後半の3年は、大きく違います。前半では、病院の体質改善のために全職員で100項目以上の改革を行いました。それでも3年目に厚労省の地域医療構想で再編すべき病院として名指しされ、悔しい思いをしました。古川雅典市長と一緒に記者会見をし、国相手に奮闘しました。後半の3年間は、新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。市民の皆様の日常生活も一変しました。県内の病院でも院内クラスターで病院機能が停止したところが多数あります。しかし当院では、3年間で病院内の集団感染者は8名で、入院制限もわずか5日間でした。職員一人一人が、いろいろなアイデアを出し、患者さん・ご家族のためになること、また病院のことを考えて行動してきました。8月の第7波では、発熱外来に一度に60名くらいの患者さんが殺到し、整理券でも間に合わず、高齢者や基礎疾患のある方を優先せざるを得ませんでした。「全員の患者を診る」というお声もいただきました。その後、国の方針も変更され、重症化リスクの低い方は、自宅療養が基本になりました。私自身も、8月に家庭内感染で家族からうつり自宅療養しました。これまで3年間で800名弱の入院患者さんを受け入れました。

その他、発熱外来、接触者外来、妊婦PCR検査、さらには、ワクチンの接種も行い、新型コロナウイルスに真正面から立ち向かいました。今年の5月でいろいろな制限がはずされ、以前の生活パターンに戻ることが期待されています。

東濃地区の他病院でクラスターが発生し入院制限になると、当院に搬送される患者さんが急激に増加します。中津川市、恵那市、瑞浪市、土岐市の救急隊からも連絡が入ります。数台が重なることもあります。3年前は、救急車の受け入れも年間1600台(1日平均4.4台)でしたが、現在、2300台(1日平均6.3台)に増加しています。直近の3カ月間では、第8波の影響もあり1日平均8台にまでなっています。救急車以外に、直接来院する患者さんもいます。スタッフも対応に大変ですが、皆で頑張っています。1次・2次救急は多治見市民病院、3次救急・高度救命は県立多治見病院と両病院の連携を密にして行っています。

多治見市民病院と県立多治見病院さらに医師会の開業医の先生の3者が存在してはじめて、人口10万人の多治見市の医療が成り立つことが明らかになってきています。今後とも多治見市の病める人のために日々向上に努めたいと思います。引き続き、ご支援をお願い申し上げます。